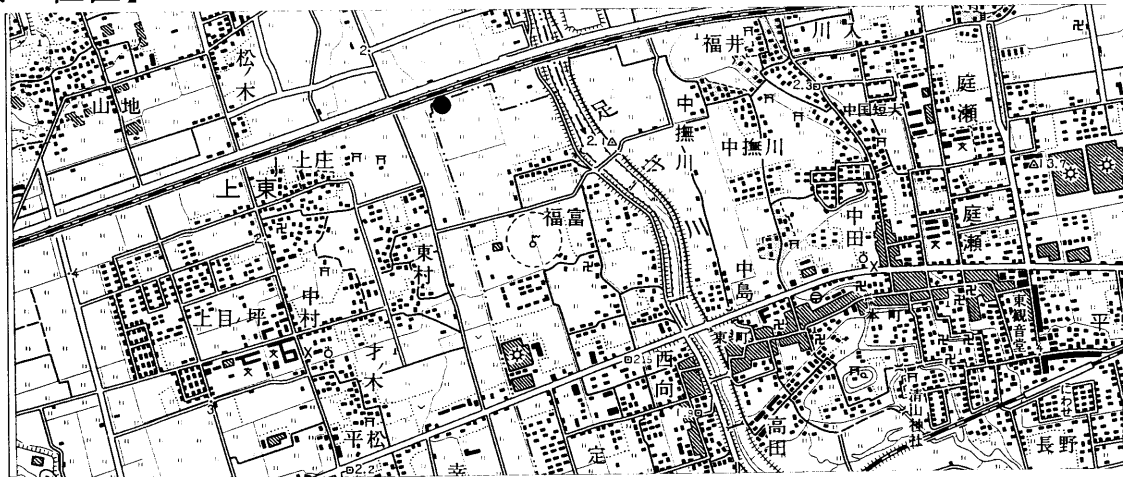


## 岩倉遺跡

草原孝典

### 【遺跡の位置】



S=1/25,000

### 【遺跡の概要】

岩倉遺跡は、岡山市北区撫川に所在する弥生時代後期を中心とした集落遺跡です。かつては、弥生時代前期の土器が出土していることから、弥生時代前期の集落遺跡と考えられてきました。その南端の発掘調査成果や遺跡全体に散布している土器の傾向から、弥生時代後期に最も遺構や遺物の密度が高かったと推測されます。

弥生時代後期は、足守川下流域で数多くの集落遺跡が形成され、大規模な墳丘墓も築かれます。岡山平野の中心地であったと考えられ、岩倉遺跡もその一角を担っていたと推測されます。

発掘調査の結果、竪穴住居、掘立柱建物、土壇、溝が検出され、とくに溝は埋没時に多くの土器が投棄されていました。完全な形に復元できる土器も含まれており、単にゴミ捨て場として利用していたのではなさそうです。溝が廃絶する際に、飲食を伴った盛大なお祭りが行われたことを示しているのかもしれませんが。

### 【文献】

草原孝典2011年『岩倉遺跡』岡山市教育委員会

### 【交通】

JR山陽本線「庭瀬駅下車」徒歩50分

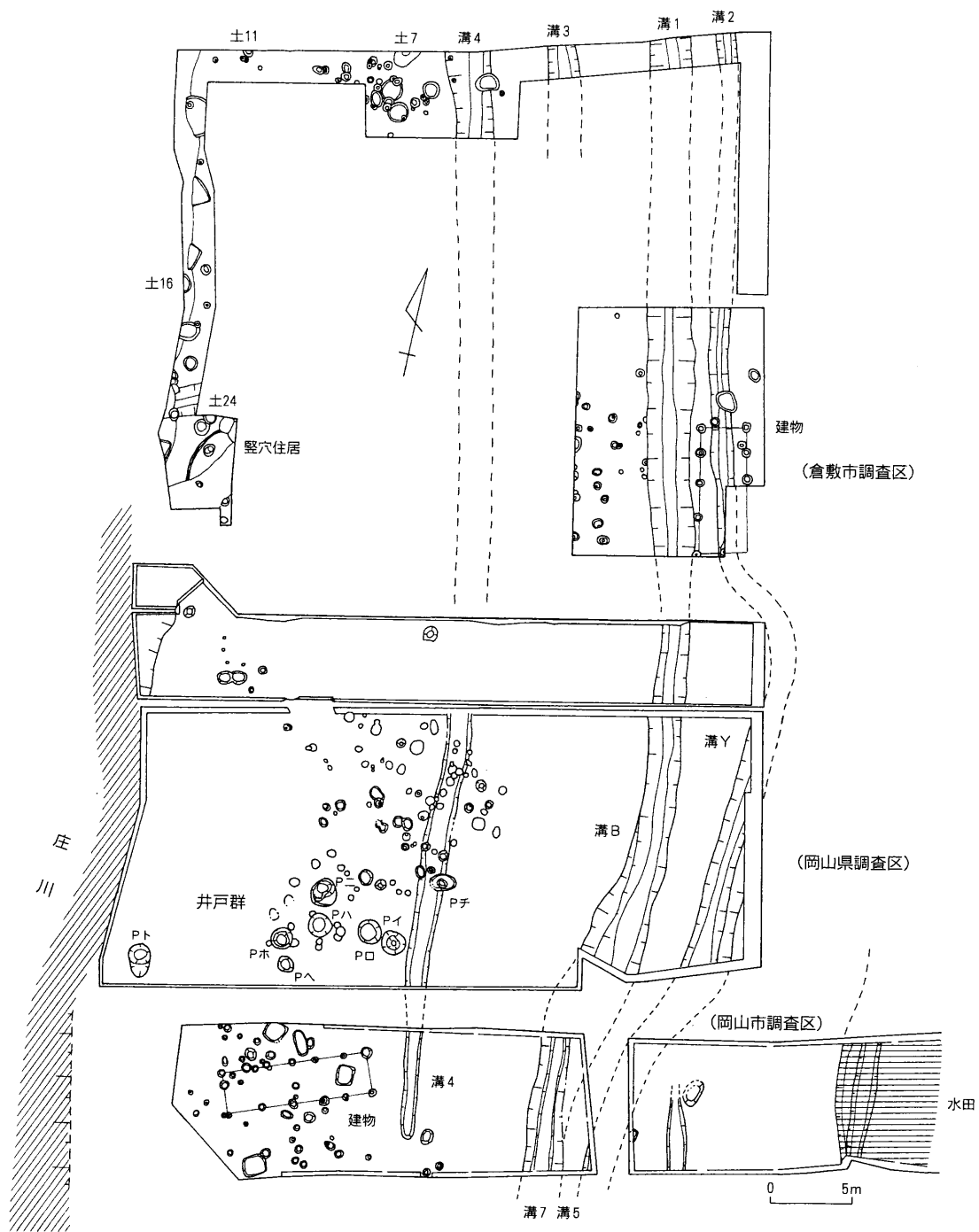


図1 遺構配置図

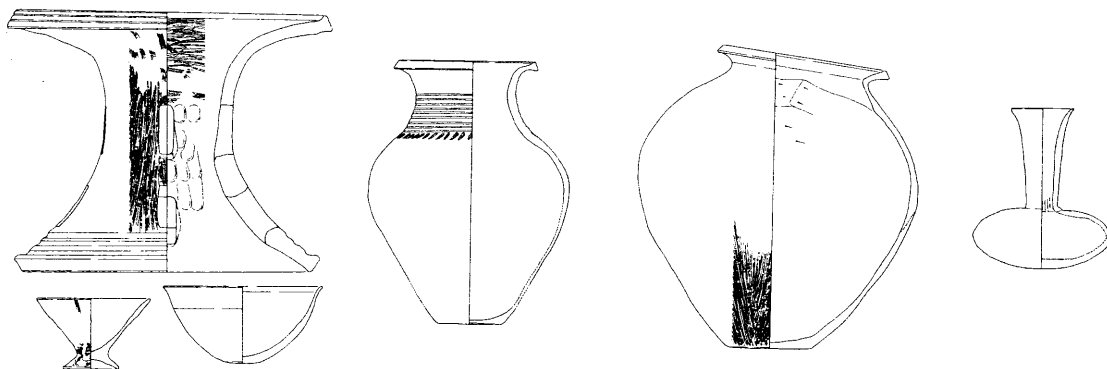


図2 出土遺物